2009年12月1日発行　早 蕨　第440号　毎月1日発行（昭和62年2月21日第三種郵便物認可）

さわらび ホームページ http://www.sawarabi.or.jp

みんなの力でみんなの幸せを

sawarabi

# さわらび

2 医学講話 感染防御　～はじめに自然免疫ありき～
◆老人保健施設ジュゲム　施設長・東京大学客員研究員　金井 芳之
8 特集 第9回　福祉村サミット in豊橋

2009 12
vol.440

医学講話
Medical Lecture

# 感染防御
## ～はじめに自然免疫ありき～

老人保健施設ジュゲム　施設長
東京大学客員研究員
**金井 芳之**

**地球温暖化**により微生物界にも大きな異変が起きている。20世紀の後半からエイズ、C型肝炎、西ナイル熱、ラッサ熱、そしてサーズなどの所謂「新興感染症」や古くからあったジフテリア、百日咳、デング熱、マラリア、ペストなどの「再興感染症」もそれと無関係とは言えないであろう。当面世の中を賑しているのが新型インフルエンザ（以下フルと省略）であるが、これも地球温暖化と無関係ではなさそうである。「フル」は昔からあったと思われるが、フルの第一号は1918年に全世界に広がり（これをパンデミックと呼ぶ）、数千万人もの死者を出した所謂スペインかぜで、当時はその原因がウイルスであるとは分からなかったので、「かぜ」と扱われた。その後の死体や標本の分析から、それがウイルスによることが判明した。スペインかぜの感染力があまりにも強力、つまり英語ではinfluential、であったことからインフルエンザウイルスと命名されたと小生は理解している。

**インフルエンザ**（フル）の流行期は乾燥した冬場（もちろん夏でも今までも散発的に発生することはあったが）と思われていたが、承知のように、今年4月にメキシコ発のフルが日本に上陸、世間を騒がせた。その後騒ぎは鎮静化に向かったが、夏に再発し、今感染者が急増中である。敢えて個人的な意見を述べれば、感染の増加は小児に著しいが、小生にはまだパンデミックの感は無い。現在、わが国はワクチン接種で悪戦苦闘しているが、医療の実態の把握が不十分である。分配するワクチンの容器を1ccにするか、将又5ccか10ccか、安全性と経済性を巡って与野党で攻防している始末である。これなど現場通の医師の助言で容易に解決しうる問題である。新型フルワクチン対策については4月の段階で着手していれば、現状の不足は少しは緩和されていたであろう。

**ここでワクチン**の生い立ちに少し触れてみよう。その発端は約200年前ジエンナーによって開発された牛痘（牛の天然痘）ワクチンで、極めて粗末なものであったが、ヒト天然痘の発症を抑制していたようである。この辺りから疫病を予防するということで「免疫」という言葉が定着してきた。古くは紀元前四百年頃、カルタゴ軍が地中海のシシリア島に侵攻し、シラクサ軍と交戦した時ペストが大流行して停戦になった。カルタゴ軍は新鋭部隊を編成しシラクサと再戦、シラクサ軍は既存の部隊で戦った。再びペストが流行し、カルタゴの新鋭部隊は惨敗したのである。一方の古いままの戦力で戦ったシラクサの兵士達にはペストに対する抵抗力が出来ていたのでその難を免れたのである。これが歴史上最初の「免疫」の登場である。

**ペスト、コレラ**、天然痘、はしかなどは一度罹って回復すると、二度は罹らないので、「二度無しの病気」と云われた。これが現在のワクチンの有用性の根拠となったのである。そのワクチンのお蔭で天然痘は1980年にWHOによって撲滅宣言がなされた。以上の疫病は病原性の変異が軽度であったため、一度の感染又はワクチン接種で免疫が成立したものと考えられる。もし現在のフルのようにそれらの病原性が目まぐるしく変化していたならば、フルワクチンの現状は大分違っていたと

思われる。つまり感染症全体を通じて、その予防対策が混迷したか、或いはワクチンの開発が著しく進歩したかのどちらかであろう。

**同一の感染症**に二度罹らないのは、現在では「細胞性免疫」と「液性免疫」が成立したと説明される。具体的には前者が感染細胞に直接作用し、病原体ともどもそれを破壊するキラーT細胞がメモリーとして永続すること、そして後者は血中に流出する抗体を産生するメモリーB細胞が誘導され、リアルタイムに感染防御抗体を産生出来る状態にあることを意味する。従ってワクチンには予想される侵入病原体に対するメモリーT細胞やメモリーB細胞を予め産生させる機能が備わっていなければならない。完全マッチでなくても交叉反応レベルでもよい。感染免疫には「交叉反応」というメリットがあり、病原体に著しい変異が起きなければワクチンが完璧でなくても発症抑制又は症状を軽減する効果が期待できる。このことは今度の新型フルにも当てはまり、正確ではないが、65歳以上のヒトは感染しても普段健康であれば軽症で済むとも云われている。小児の発症が多いのは交叉反応がないからだと想像される。このような交叉反応だけで解決出来るにこしたことはないが、天然痘などとは違って、フルは変幻自在に型を変えるので、それに対応するワクチン産生が必要となる。今期のフル騒動が鎮火してもまた来期を憂えなければならない。

**感染防御**には前述の二度なしの病気に象徴される所謂「獲得免疫」の他に、生来備わっている「自然免疫」がある。変幻自在に変貌するフルにはワクチン効果を増強する自然免疫の強化策が今こそ望まれる。自然免疫とは新たな病原体侵入に対する獲得免疫が成立するまで働き続ける生体防御機構のことである。思えば四十年程前、外科総論で習った『炎症』の定義つまり「発赤」「腫脹」「熱感」「疼痛」と言う用語に自然免疫の全てが表現されていたのである。外科から発せられた用語であるから、その対象は自ずと外傷に伴うものであったであろうが、自然免疫こそ「炎症」の〝超ミクロ版〟であったのだ。近年の分子生物学の進展で病気の発症機序が所謂「受容体」を介した情報伝達の異常であることが次々に明らかにされるにつれて、炎症の〝超ミクロ版〟つまり自然免疫もトールライクレセプター（Toll-Like Receptor）（TLR）という受容体を介して作動されることが明らかにされた。TLRには遺伝子の違いから11種類が存在し、各々外来侵入物に対する担当が割り当てられていて、そこからの信号（種々のサイトカイン）が、キラー細胞や抗体産生B細胞を強化する。これらが適切に行われると感染防御が成立するが、それが過剰に働くと関節リウマチやその他のリウマチ性疾患と云うような難治性自己免疫疾患の発症にも繋がる。その点で自然免疫の主役TLRは諸刃の剣でもある。フルに感染して発熱することはTLRが作動していることを示し、いたずらな解熱は治癒を遅らせることになる。反対に瞬時の過剰反応はサイトカインストームと云われ、死に至る危険もある。

**本邦では**新型フルワクチンにアジュバントを添加するか否か、問題になっているが、このアジュバントこそTLRを介した自然免疫を強化する手法の一つで、世界レベルではアジュバントが既にがんの免疫療法にも積極的に導入されている。本稿では少し話を簡素化したが、次回にでもこのTLRを介した自然免疫とアジュバントについて解説できたらと思っている。

**参考文献**
**Scientific American, October 2009; ibid, January, 2005**

長寿医学研究所

# 研究通信

news of study

Vol. 23

長寿医学研究所　所長

奥田 研爾

## 【「万能型インフルエンザワクチン」開発に向けて】

現在、新型インフルエンザが国内でも異常な広がりを見せ、死亡する子供たちも増加している。また、ワクチンは充分に行き渡ってなく、そのワクチンも免疫した同じ型のものでしか有効でなく、またその感染予防効果も以下に述べる様に強くない。一方、図1に示すように新しい高病原性ウイルスがどんどん出現しつつある。そこで我々はもっと広範囲に感染を強く防御できる新しい型のインフルエンザワクチンを作製しつつあります。

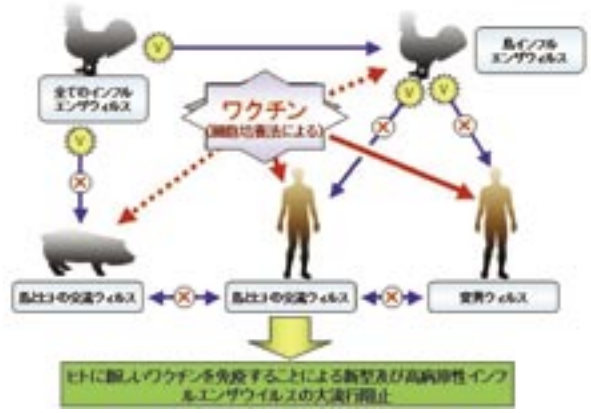



図1　新型・高病原性インフルエンザ流行の阻止ワクチン開発

まず、インフルエンザワクチンはRNA型ワクチンであり、変異が非常に強いことで知られており、そのワクチンは今までは殆どがウイルスの表面にあるHA抗原といわれるところに対する抗体を誘導することを主に考えてきた。しかし、この変異の多い表面のHA抗原は毎年変化を起こし、そのために新しく出現してくるインフルエンザウイルスには、ほとんど有効性がない場合が多く、非常に難解なワクチンの一つとなっている。

そこで我々は表1でも解るがインフルエンザの変異の起こらない部位（蛋白NPと細胞内成分　マトリックスM蛋白（表1））を主として使用し、HAの共通アミノ酸配列をも含む3種類の遺伝子を、強い免疫反応を生じさせるため新しいウイルスベクターに搭載し、多くのインフルエンザウイルスに対しても有効ないわゆる「万能インフルエンザワクチン」を作製しようと研究を重ねている。その免疫性を非常に高めるために、我々はE1欠損型アデノウイルス（Ad5/35型）という免疫誘導能の非常に強いウイルスベクターを作製し使用し、そこにHA,NP ,Mを主とした遺伝子を組み込み（図2のB）、多くのインフルエンザウイルスに対して有効であるワクチンを作製しつつある。

図3に今迄の結果の一部を示す。まずA/PR/8（H1N1）という一般的なインフルエンザウイルスの

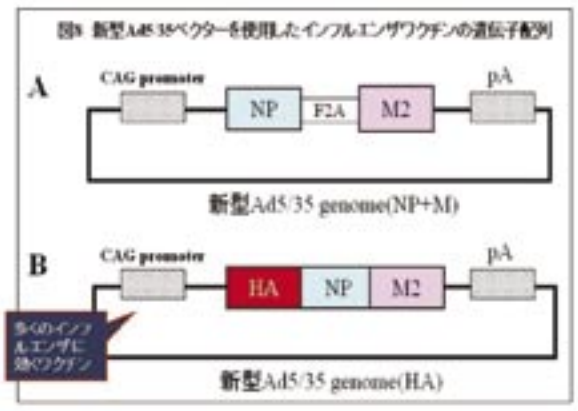



図2　新型Ad5/35ベクターを使用したインフルエンザワクチンの遺伝子配列

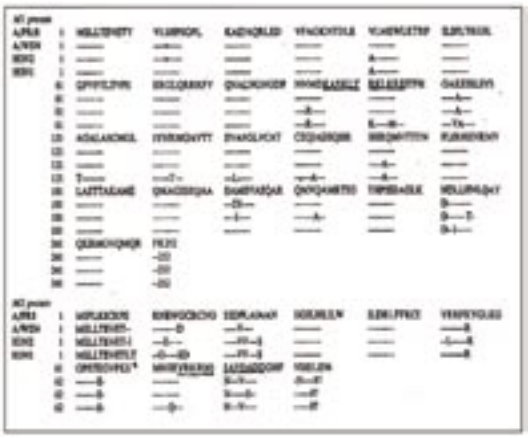


表1　インフルエンザウイルスM蛋白の相同性

HA,NP,Mの遺伝子で作成したワクチンをマウスに免疫する。次に同じA/PR/8を感染させるとマウスは１００％生存した。しかし現在使用されているワクチンと同じようにして作製した不活化ワクチンではあまり強い感染抵抗性を付与する事が出来なかった。一方A/Gizhou-Xという全く新しい型のウイルスを感染させても我々の作製したワクチンを免疫したマウスは１００％生存することが分かった。不活化ワクチンでは新しい型のインフルエンザに対して全く感染抵抗性を付与する事が出来なかった。

現在、我々のワクチンは新型を始め多くのインフルエンザなどにも極めて有効であることが確認されつつあるが、その他、新しく出現してくる鳥型インフルエンザなどにも有効であることをインドネシア感染研究所の人や京都府立大学の塚本康浩教授らと共同研究を行いつつある。今後種々の安全性試験を行って、安全であることが判明すれば、毎年新しいインフルエンザワクチンを開発しなくても良いことになり、多くの医療従事者や利用者などにも使用出来、極めて有効なワクチンが作製されると思っている。

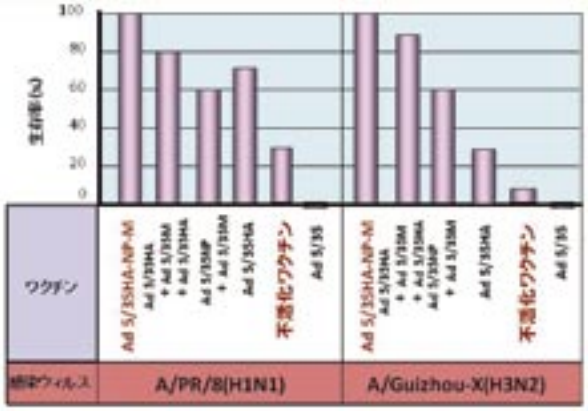



図3　新型Ad5/35 HA,NP,M2ワクチン免疫による
各種インフルエンザに対する感染予防効果

## 珠藻荘と医療ケアホームの方々との交流会

福祉村の中にある職員宿舎「レジデンスなかま」の１階に重度の障害を持った方が暮らす医療ケアホームがあり、十月十八日に珠藻荘自治会の方と「見学&交流会」を行いました。

珠藻荘の利用者にとっての大きな目標でもある、「地域生活」を身近に感じたい、また、高齢と共に医療的なニーズの発生が予想されるため、今回、「是非、見学をしてみたい。」との声が要望となり自治会主催で見学と交流会が実現しました。

見学はやはり環境面での整備についての関心が高く、トイレ、浴室の高さなど、実際に自分たちの生活を想定した質問をされていました。また、介護の時間や、職員の勤務時間などを真剣なまなざしで聞いていました。

交流会では和やかな雰囲気の中、お互いの生活について、良い点悪い点などの意見交換がされていましたが、最後には同じ障害を持つ同士という点で意見がまとまり将来の希望や夢などにまで話が拡がり、とても有意義で楽しい一時を過ごすことが出来たようです。

最後に、今回の見学&交流会を通して、参加された珠藻荘の利用者は実際の地域生活のスタイルの一つに触れたことにより「地域」をより一層、身近に感じ、そして地域生活を現実のものとして捉えることが出来た、意義のある交流会となったと思います。

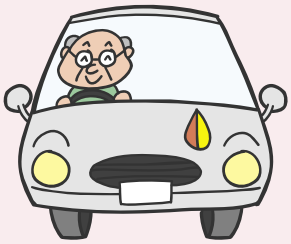
また、医療ケアホームの方々と行事等への参加への呼びかけを行い、地域、施設の枠を超えて交流を行ってゆきたいと思います。（田中）

●職員の話を熱心に聞く珠藻荘の利用者

# 家族介護者交流会
## ～認知症の方の自動車運転～

今年七月に、地域で認知症の方を介護する家族の交流会を行いましたところ、参加者の多くから、「認知症の方の運転について困っている、又は困ったことがある」という話が出ました。これを受けて十月三一日（土）に、ユタカ自動車学校の加藤伸英氏を講師に迎え、二回目の家族介護者交流会を行いました。

講師の体験談を皮切りに、「認知症の方の運転について」の講話と、高齢者講習や講習予備検査のご説明を頂きました。講習予備検査とは、現在の認知機能や運転状態を知っていただく検査であり、運転免許証を取り上げる目的ではないとのことでした。



また、認知症の方の運転の制限については、**急に制限するのではなく、まず視界の悪い薄暗い時間や夜は止めて、昼間運転するように促す。その後、雨の日は見えにくいので晴れた日に運転するなど、段階を経て運転を見直すと良いでのはないか、**といった方法の提案がありました。

講話の後の交流会の中で、ある介護者の方が、認知症のご本人が「自分は何もできなくなった」と嘆くことがつらいと言われ、他の参加者から「何もできなくなった訳ではない。若い頃ほど速く走れないのと同じで、考えるスピードがゆっくりになっただけ」とお話しされる場面がありました。介護者同士だから分かり合える、そんなひと時を過ごして頂きました。

（松下）

## 中央競馬馬主社会福祉財団からの助成金が決定

しろがね利用者の方々の重要な移動手段としての車両の1台が、来春には使用できなくなり、それに替わる大型車両（リフト付き・車椅子4台、16名定員）購入のために、助成金が、右記財団より頂けることが決定し、11月4日、その目録贈呈式が名古屋アイリス愛知で行われました。

贈呈式には、役員の森みのり氏が出席し、中京馬主協会、永井会長より目録が贈られました。

（石黒）

## 渋谷区議会議員「白珠」視察

11月6日（金）東京都渋谷区より、区議会議員9名の方々が、豊橋市における高齢者福祉・介護保険事業計画の評価と今後の課題に関して豊橋市と情報交換を行い、その一環として「グループホーム白珠」を視察されました。

議員の皆様は玄関に入られた際の、一般的なグループホームのイメージとは異なる、明るく華やかな雰囲気に感心されておりました。

その後、山本ゆかり専務理事と職員から「白珠」の概要説明を受け、お部屋などを見学されました。見学中、議員の皆様は熱心に質問され、今回の視察を有意義に終えられました。

（渡邊）

# さわらび大学レポート

◉2009年10月22日講義

## 「感染症について（インフルエンザなど）」

◎講師：さわらび会 福祉村病院 院長 **小橋 修先生**

これまで少なかった北海道や愛知県で、新型インフルエンザが大流行しています。アメリカでも同様で、10～20％の人が発病し、およそ住民の40％が抵抗力を持つようになると流行が収まるが、今度はそれまで流行が少なかったところで爆発的な流行が起こっています。感染し発病する人もいれば、感染しても発病しない人がいるのが感染症の特徴です。

インフルエンザも例外ではありません。

**マスク・手洗い・うがいでインフルエンザウイルスの感染を防げますか？答えはノーです。**ではどの程度防げますか？ウイルスで汚染された物に手で触れた場合は31％、ウイルスを含む微粒子を吸入した場合は17％、咳による飛沫が至近距離で眼、鼻孔、口に接触した場合は52％のヒトが感染するといわれています。

**インフルエンザ感染はワクチンで防げますか？答えはノーです。**ワクチンをした方が、発病は6割がた減少する、入院も半減する、死亡も五分の一に減少することは、国内外の統計の示すところです。もちろんワクチン接種の効果は、若者の方がよく、高齢ほど免疫はできにくいことも事実です。

さて、新型インフルエンザにかかったら自宅待機をするように指導されており、発病者は必ずきちんと薬を飲まなければならない。自宅療養で気をつけなければならない一番大切なことは、**入院治療が必要となる危険信号を見逃さないことです。**子供の場合には、呼吸速迫、呼吸困難、注意力消失、起き上がれない、いつもと違って遊びたくない、遊ぼうとしないなどの症状は危険信号です。大人であれば、息切れ（動いたとき、安静時）、呼吸困難、呼吸のしにくさ、血性の痰、胸痛、意識の障害、3日以上続く高熱、血圧の低下などどれかひとつでもあればすぐに呼吸管理のできる病院を受診することです。救急車を使うときは新型インフルエンザで重症化しそうですと告げることが大切です。

**高齢者の場合には重症化していてもはっきりした症状を訴えないので、**いつもより元気がない・食欲がない・うとうとする・微熱が続くといった、たいしたことはないと思われる症状でも重症化していることがあるので、受診をして早期発見・早期治療しましょう。

一般に、感染症を予防する一番よい方法は**ワクチン**ですが、**ワクチンのない感染症の方が圧倒的に多く存在しますので、栄養、適度の運動と十分な休息、十分な睡眠で、**どのような感染症にも負けない抵抗力を最大に保つように心がけましょう。**「治療できない病気は多いが、看護できない病気はほとんどない」。**病気の治療において、クスリはその三分の一を受け持ち、三分の一は、24時間接している介護者との信頼関係、残り三分の一は、周囲の人々や地域の支えの三拍子がそろってはじめてよい状態を作ることができます。認知症で周辺症状の強い方たちを、困った、困ったと避けるのではなく、無条件に支え、一緒に楽しく演技をする気持ちで介護をすることが大切です。

**病気の治療は病院に任せ、高齢者の生きがいを損なわず、生き生き人生を送れるようにサポートしましょう。**

特集

# 第9回 福祉村サミット

◆平成21年11月19日㈭～20日㈮開催

## 「福祉村だからできる福祉サービス」のさらなる充実をめざして

**複数種別の福祉施設と病院を運営する大規模民間社会福祉法人・医療法人が、共通する運営課題や、法人の今後のありかたについて意見を交わし、地域の皆様の幸せの実現をめざします。**

さわらび会の提唱により平成十三年に始まった福祉村サミットはその後毎年開催となり、北海道から鳥取県まで全国をめぐる中、参加法人、規模も拡大し、また討議内容もより高度なものとして成長をしてきました。そしてその「福祉村サミット」が第九回の今回、再び豊橋に戻って来ました。

今大会はホテルアソシア豊橋を会場に十六法人　七十三名の皆様が集まり過去最大規模の福祉村サミットとして熱気ある大会となりました。

開会にあたり主催法人を代表してさわらび会山本孝之理事長より「みんなの力でみんなの幸せを」というさわらび会の理念、そしてその理念を実現する様々な取り組みの様子を交えながら福祉村サミットの開催意義についての解説が行われました。そして最後に「今回のサミットが実りあるものになるようにしてゆきましょう。」という開会挨拶により福祉村サミットは始まりました。

### 【第一日目開催報告】

講演1

### 「変化する地域社会とセーフティーネット」

厚生労働省老健局　課長補佐

千田　透　氏

急速に高齢化が進む社会、そしてワーキングプア、ネットカフェ難民の出現による格差社会。このような社会情勢の変化の中、地域社会においては「地域の連帯感希薄化」「制度では拾いきれないニーズ、制度の谷間にある者への対応」など多様な福祉課題が出現しています。そしてこのような情勢の中、地域における「新たな支え合い」（共助）という事が求められています。

高齢者・障害者がいつまでも安心して暮らし続けることができる社会の実現にむけて、その中心的役割を担うのが社会福祉法人です。そして社会福祉法人自身も今後は、地域を意識した独自のサービス、システムの構築や、多様なサービスの担い手を地域で創造・育成・連携等を行い新しいコミュニティーづくりを行う責任を有しています。

千田課長補佐の講演はまさにさわらび会がめざすものであり、福祉村サミットの開催意義そのものであるご講演を頂きました。

## 講演2

### 「新しい認知症の医療とケア」

国立長寿医療センター　包括診療部長
**遠藤 英俊** 氏

高齢化社会の中でも大きな課題となっている認知症について、その新しい医療の考え方、そして診断技術の向上に関する研究の最新の情報、そして若年性認知症に対する課題、対策についてデータ、スライドを使用してわかりやすく解説頂いたあと、ケアマネ・ヘルパーのケアの格差が大きいことや、認知症ケアの標準化及び、研修ができていないこと等、認知症ケアの課題ついてお話をして頂きました。

そして認知症のお年寄りがその人らしく暮らせるように、一人ひとりのニーズと気持ちに合わせた援助方法である「パーソンセンタードケア」の理念について。また、認知症のお年寄りの行動を六時間にわたって観察し、五分ごとに行動を記録しそれぞれについて良い状態か悪い状態かを数値で表し、地図を作るように表を作成し適切な援助方法を検討する「認知症ケアマッピング（DCM）」の導入方法や効果について解説を頂きました。

第一日目の日程終了後は懇親会が開催され佐原光一豊橋市長も来賓としてご出席頂き、祝辞を頂きました。また、懇親会はなごやかな雰囲気の中、法人相互の活発な情報交換の場となりました。

**【第二日目開催報告】**

サミット二日目は「福祉村だからこそできる福祉サービス」をテーマにさわらび会を含めた四法人より実践報告を頂きました。

### ◆実践報告発表

**「継続的に経営基盤を維持するための事業展開」**
長岡福祉協会　桜花園園長
**片野 勉** 氏

**「私らしくあるために」**
天竜厚生会サービス事業部
サービスセンター主任
**松井 加奈** 氏

**「旭川荘におけるスポーツ・芸術文化活動」**
旭川荘　竜ノ口寮寮長
**樫野 秀基** 氏

**「医療と福祉の連携　世代と障害の種別を越えた支援」**
さわらび会
若菜荘施設長　**武田 和敏**
珠藻荘副施設長　**田中 力**

四法人より発表された報告はどの報告も充実した内容で、法人の今後のありかたについて大いに参考になるものばかりだったのではないでしょうか。

さわらび会からは「みんなの力でみんなの幸せを」という理念を実現するため、「自立」「就労」「創作活動」等において世代と障害の種別を越えた交流の様子。また大規模震災発生時において地域の一般避難所では生活できない認知症のお年寄りや障害をお持ちの方が安心して福祉村を避難所として利用して頂くための様々な取り組みの様子。そしてさわらび会の中心的支援ネットワークである「高齢者担当会議」「障害者担当会議」「在宅医療福祉部会」それぞれの活動、及びこれら三部会の相互の連携について実際の事例を交えながらスライドで報告させて頂きました。

今回のサミットで改めて、この地域におけるさわらび会の大きな役割や進むべき道を再確認できた実りある福祉村サミットが開催されました。

（江川）

MAMOTO

## GTレース最終戦

10月17・18日にドイツのオッシャースレーベンにてGT Mastersの第7戦（最終戦）が開催された。

10月のドイツは、日本よりも寒く日中でも10℃くらい、夜間には0℃近くまで気温が下がる。

そのような気候の中開催された、17日の予選とレース1では、天気が雨のウェットコンディション。左近選手のドライブするアウディR8 Lmsはフロントタイヤが温まりにくいため、路面温度が上がらない状況では本来の走りができず、フラストレーションのたまるレース展開となった。

それでも、迎えたレース1では、パートナーの予選結果でスタートグリッドが決定されるため、19番手からのスタートとなったが、左近選手の懸命の走りにより14番手まで順位を上げてフィニッシュした。

翌18日は天候も回復し、ドライタイヤコンディションでレース2を迎える。

14番手からスタートした左近選手は今シーズンを締めくくるにふさわしい怒濤の走りで、次々と前の車をオーバーテイク。圧倒的なパフォーマンスで8台を抜き、順位を6位にまで押し上げパートナーと交代した。その走りは、今年のGP2アジアシリーズ最終戦のバーレーンGPを思い起こさせる、華麗なオーバーテイクショーだった。そして、その果敢に攻める走りは、観客を魅了し、周りにいた関係者を唸らせるのに十分だった。

レース後に左近選手も「久しぶりに自分のドライビングができて、気持ちの良い最終戦を終えることができました。」と振り返っているように、本人にとっても満足のいく走りであった。

今シーズンのレース活動は、これで一旦お休みとなる。今シーズンは、新たに参戦した

# 〝魅せた!!左近の力〟

**今年から参戦したGT Mastersも最終戦をむかえた。**
**有終の美を飾るべく、トップレーサーとしての走りを存分に発揮してくれた!**

• Photograph by IMAHARA Taro（TIPP）

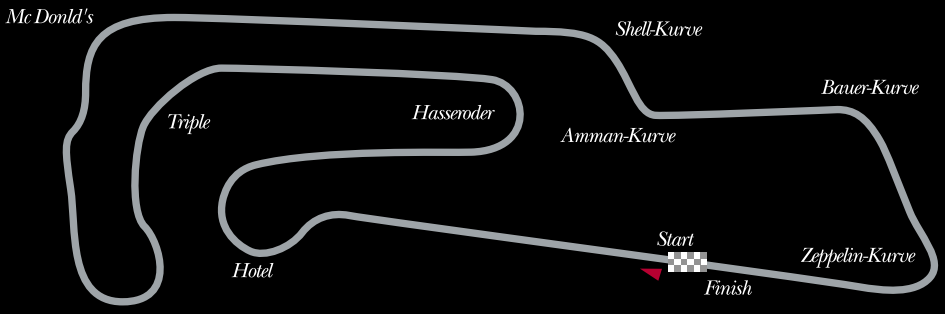
# SAKONYA

GTMastersにおいて主にレースを繰り広げたが、二人一組で走るという独特なレーススタイルであったり、度重なるマシントラブルに見舞われたりと、なかなか左近選手自身の力をフルに出し切れない場面が続いていた。しかし、最終戦になってしっかりと本領を発揮するあたりは、やはり一流ドライバーのなせる技である。

数々の苦難を越えて一段とドライビングパフォーマンスに磨きが掛かってきた左近選手。来期からの、その走りに大いに期待せずにはいられない最終戦となった！

（鳥居）

## Oschersleben




【オッシャースレーベン】
（Motorsport Arena Oschersleben, モートルシュポルト・アリーナ・オッシャースレーベン）

ドイツ、マグデブルク近郊のオッシャースレーベンにあるサーキット。

ニュルブルクリンク、ホッケンハイムリンクに次ぐドイツ第3の常設サーキットとして1997年に完成。一周は3.667m。ドイツツーリングカー選手権（DTM）の開催地のひとつ。

俳句浪漫

# 直筆の書で季節を彩る

ジュゲム施設長・東京大学客員研究員
金井 芳之

## 流感も　香に酔いて　村静か

中世にヨーロッパでペストが蔓延した際、ハーブオイル（つまり当世のアロマオイル）の商売人達は難を逃れたと言う。そこでジュゲムの5階のフロアーを使い、ハーブオイルカクテルの空中浮遊菌抑制効果を、夜間帯を用いて調べた。詳細は科学誌に譲るとして、具体的には、3リッターの水にオイルを0・03％加え、加湿器で蒸発させ、培地に落下したコロニー数を対照と比べてみた。その結果、70％の抑制効果が認められた。反復実験で再現性がみられ、それに関与する化学物質も明らかになった。夜間のナースセンターは心地よい香りに包まれるという効用も得られた。その実験過程でたまたまノロウイルス感染症が十七例発症したが、実験をした5階からの発症は無かった。ちなみにインフルエンザの発症も皆無であった。なお、空中に蒸散されるハーブオイルの濃度は5階フロアー全体で計算すると、概略一億分の一、安価、安全性からも、この冬はジュゲムの要所要所にそれを導入することにした。気分良く、安寧を祈念した一句でもある。

## 福祉村保育園だより

日本でもここ数年で定着してきたハロウィン。保育園でも十月三十日にハロウィンパーティーをしました。子ども達は事前に仮装の準備やカボチャのランプのお菓子入れ作りなどの用意を進め、当日を心待ちにしていました。自慢の衣装に着替えいざパーティーへ！「トリックオアトリート」「ハッピーハロウィン」のかけ声が飛び交い、みんなで作ったおもちゃのお菓子をあげたりもらったりして楽しい一時を過ごしました。

（杉浦）

● お菓子いっぱいもらったよ

第41回

# いかり先生の“お遍路さん”

―四国八十八ヶ所霊場めぐり―

## ●ひとりで生れ、ひとりで死ぬ

福祉村病院 副院長　伊苅 弘之

第四十九番浄土寺から第五十番東山繁多寺（ひがしやまはんたじ）へは二キロ弱で徒歩三〇分、車で五分程度だ。

繁多寺は淡路山という丘陵の中腹にある。山門は小さいが後ろを振り返ると松山市内から瀬戸内海まで見渡せる。地元では「畑寺」と呼ばれている。

山門をくぐり石段を登ると広い境内が開けた。正面には本堂が見える。数人参拝している人がいたが、頭に黄色いタオルをまいた歩き遍路装束の二十歳前後の男性は見当たらなかった。タイミングとしては前の寺からここに来れば丁度出会うように思えたがいなかった。「あのおにいさんいないね。」と娘たち。「今までがタイミングが良すぎたんじゃないの」と妻。

繁多寺は時宗の開祖である一遍上人ゆかりの寺でもある。彼は鎌倉時代の僧で、空也上人を先達と尊信し念仏を唱えて全国を歩き「捨聖」と呼ばれた。この一遍上人が十四歳の時に修業をした寺である。

一遍上人は伊予の名門河野一族の河野通広の次男として道後で生れ、十三歳で出家して二十五歳の時に念仏布教の旅に出た。「生ぜしもひとりなり、死するもひとりなり」という言葉を残した。

この寺は境内が広々として清々しい。一三九四年に京都泉湧寺の快翁和尚が住職となった後、高僧が相次いで住職となった。一六八一年には龍湖という名僧が住職となり、徳川幕府の帰依を受け寺運は隆盛になり六十六坊と末寺百余という大寺だったと伝えられる。自然の中に広大な境内があるのは過去の遺産なのだろう。

「あのおにいさんは、どうしたのかなあ」と中二の娘。「スピード上げて先に行ったのじゃない」と私。「次の寺に早く行こうよ」と小四の娘。「もう会えないのじゃないかな」と母。その時は普通の家族の会話に思えたが、とても淋しい気持ちになった。その理由は、この数か寺訪れる寺ごとに会えた若い元気な若者に突然会えなくなったせいだと思っていた。しかし、本当の理由は私が死んだ父にもう二度と会えないとその時に感じたからだったのかもしれない。

---

Vol. 23
relay column
# さわらび会のわ

さわらび地域包括支援センター保健師
松下 美津枝

今ぐらいの季節になりますと、故郷の長野では氷が張り、寒い地方ならではの楽しみが始まります。私が小学生の頃は、テレビゲームが一般的な遊びではありませんでしたので、冬はよくスケートをしていました。

休みの日の早朝はいつも友達と一緒に、近くの田んぼに作られた子供向けのリンクに行きました。スケート靴に履き替えるにも手がかじかんで、靴ひもを結ぶのに一苦労しましたが、リンクを3周もすると体もだんだんと温まってきます。そのうちにお日様が昇り、氷が少し解けだしてもなかなか帰らないほど、夢中で滑っていました。冬の体育の授業でもスケートが行われていましたし、締めくくりのスケート大会では、お弁当を持って近くの湖に行く、冬の一大イベントでした。

今は年1回子どもとスケートに行くくらいですが、陸の上ではかなわなくなった子どもの足に、氷の上なら追い付けることにささやかな喜びを感じます。

次回は、福祉村病院薬局長　髙橋邦彰さんです。

# さわらび Diary 日記

H21.10.16～11.15

◆福祉村病院・ジュゲム

10月16日 病院幹部会（理事長出席）
17日 鵜沼の輪にんじん会議主催の講演会（各務原市中央ライフデザインセンター）にて伊苅弘之副院長が「認知症ケアのレベルアップ～認知症の方の心に響くケア」について講演
19日 臨時施設長会議（ジュゲム）に理事長出席
21日 医療安全委員会
22日 さわらび大学「感染症について（インフルエンザなど）」小橋修院長
27日 豊橋市社会福祉協議会主催の認知症座談会（生活家庭館）にて伊苅弘之副院長が助言
豊橋市キャラバンメイト養成研修会（豊橋市役所）にて伊苅弘之副院長が講義
感染対策委員会
29日 橋詰先生によるCPC（理事長出席）
30日 早蕨編集会議（理事長出席）
豊橋市保健所による医療監査
11月2日 施設長会議（ジュゲム）に理事長出席
4日 サーラ創立百周年記念式典（理事長出席）
6日 名古屋市緑保健所主催の認知症うつ予防教室（名古屋市緑保健所）にて伊苅弘之副院長が「認知症の予防」について講演
7日 職員親睦ソフトバレーボール大会に理事長出席
10日 日総研主催の公開セミナー（IMYビル）にて伊苅弘之副院長が「認知症ケアマスター」について講義
12日 新城市および新城市社会福祉協議会主催の認知症講演会（新城文化会館）にて伊苅弘之副院長が「認知症の早期発見のポイント」について講演
13日 病院幹部会（理事長出席）
名古屋市社会福祉協議会主催の名古屋市居宅介護サービス事業開設者研修会（名古屋市総合社会福祉会館）にて伊苅弘之副院長が「認知症の医学的理解と認知症のケアのあり方について」講義

◆さわらび荘

10月16日 介護保険施設労働者支援事業施設説明会（施設長　岡崎）
19日 包括支援センター打ち合わせ会（松下・勝山　市役所）
保健所衛生視察
20日 職種別圏域ケア会議（勝山　つつじが丘）
22日 認知症サポーター養成講座講師（柴田　明治安田生命ビル）
26日 消費者被害防止連絡会議（勝山　商工会議所）
27日 愛知県認知症グループホーム連絡協議会知多ブロック研修会（白井有　大府）
キャラバンメイト養成講座（松下・勝山　市役所）
居宅介護支援専門員研修交流会（日下部・松井・千駄　ライフポート）
29日 認知症サポーター養成講座（白井秀・松下・日下部・勝山・金田　杉浦様宅）
30日 在宅介護支援専門員研修（勝山　名古屋）
11月2日 認知症介護実践リーダー研修（柴田竹　名古屋）
4日 認知症サポーター養成講座（白井秀・松下・勝山・金田　青陵地区市民館）
愛介連ケアマネ部会（白井秀　名古屋）
5日 包括支援センター主任ケアマネ会議（白井秀　つつじが丘）
6日 渋谷区議会議員白珠視察
9日 愛老協調理員研修（中村　名古屋）
11日 認定調査員研修（藤原・松下・浅見・日下部　名古屋）
愛介連介護の日フォーラム（白井秀　名古屋）
高卒予定者就職相談会（施設長・土井　ホテルアソシア豊橋）

◆第二さわらび荘・カサ デ ローザ

10月16日 秋陽展
27日 愛老協役員会（山本施設長　名古屋）
キャラバンメイト養成研修（長坂）
28日 全老施協正副会長委員長会議（山本施設長　東京）
29日 第二さわらび荘オータムフェスティバル
11月4日 県社協福祉教育部会（長坂　名古屋）
5日 品川区民生委員協議会見学来荘
9日 愛老協調理員研修（高橋　名古屋）
10日 県庁陳情（山本施設長　名古屋）
11日 全老施協正副会長委員長会議（山本施設長　東京）
認定調査員研修（東郡、井上　名古屋）
12日 全老施協全国大会実行委員会（山本施設長　東京）
13日 実地指導・監査

◆珠藻荘

10月16日 二川中学校福祉体験学習（3名）
18日 あかね荘医療ケアホーム見学（利用者7名参加）
19日 家族会役員会
20日 豊橋市障害者自立支援協議会（施設長　市役所）
23日 愛知県サービス管理責任者研修合同講義（村木　名古屋）
28日 進路指導関係諸機関連絡会（鳥居　豊橋養護学校）
社会福祉事業者役職員特別セミナー（施設長・田中　名古屋）
愛知県相談支援従事者研修にて講師（～29日　松井伸　岡崎）
29日 第2回生活向上委員会（石田喜　蔵王苑）
夜間想定防災訓練
30日 総合的な学習の時間にて講師（田中　湖西市立岡崎小学校）
11月4日 自治会役員会
5日 安心賃貸支援事業説明会（松井伸　市役所）
9日 インフルエンザ予防接種
12日 自治会
非常通報装置説明
13日 支援センター主催「在宅障害者のための料理教室」（あいトピア）
14日 家族会

◆若菜荘

10月16日 二川中学校福祉体験学習（3名）
26日 全老施協軽費・ケアハウスセミナー（施設長・水野　横浜　～27日）
11月2日 誕生会
4日 各階別会議
若菜会役員会
全軽協全国大会（施設長・安立　大阪　～5日）
6日 若菜会地域活動日
9日 食生活会議
全国老施協施設推進委員会（施設長　東京）
県老施協調理員研修（山口　名古屋）
11日 21世紀委員会（施設長　東京）
12日 全軽協東海北陸ブロック職員研修会（施設長・坂牧　金沢　～13日）

◆あかね荘

10月16日 誕生会
二川中学校福祉体験学習（3名）
18日 珠藻荘利用者見学受け入れ（医療ケアホーム）
19日 健康診断（～23日）
23日 サービス管理責任者研修（朝倉　名古屋）
26日 焼き芋大会
27日 福祉村サミット打ち合わせ（施設長・中陳　ホテルアソシア）
30日 来診日
インフルエンザ予防接種
11月2日 経営会議
4日 防火管理者上級講習会（朝倉　ライフポートとよはし）
5日 療育支援研究会（中陳　愛知県社会福祉会館）
サービス管理責任者研修（朝倉　名古屋　～6日）
6日 自閉症セミナー（村越　愛知県社会福祉会館）
12日 相談支援従事者研修（朝倉・真鍋　名古屋）
13日 来診日

◆明日香

10月19日 就労支援研修（末松　名古屋）
26日 ボランティアセンター運営委員会（所長　アイトピア）
就労支援研修（末松　名古屋）
28日 相談支援従事者研修（藤井　岡崎　～29日）
29日 宝陵高校文化祭　委託販売
30日 回診日
11月1日 くすの木福祉祭り　委託販売
2日 評価会議
4日 家族会役員会
6日 個別支援会議
7日 木藤会計　会計監査
9日 木藤会計　会計監査
10日 自治会　工賃支給日
11日 デンソー販売
12日 豊橋市監査指導
13日 回診日（インフルエンザ　予防接種）

◆しろがね

10月23日 相談支援従事者研修（福山　名古屋）
26日 TFM合唱団
11月4日 中央競馬馬主社会福祉財団助成金交付目録贈呈式
5日 療育支援研修会（八木沼　名古屋）
8日 わかりやすい自閉症基礎講座（職員6名参加　名古屋）
9日 TFM合唱団
10日 さなえ会おやつ奉仕

◆各施設共通

10月17日 豊橋祭り市民総踊り参加
19日 施設長会議
22日 中部中学校福祉体験学習
11月2日 施設長会議
3日 障害者担当会議
5日 彦根市民生委員施設見学
7日 職員親睦バレーボール大会
10日 在宅医療福祉部会
福祉村クリーン運動

## さわらび会後援会寄附ご芳名

平成21年10月15日～11月14日

| |
|---|
| 10,000円 |
| 5,000円 |
| 5,000円 |
| 16,000円 |
| 10,000円 |
| 10,000円 |
| 5,000円 |
| 5,000円 |
| 1,000円 |
| 10,000円 |
| 10,000円 |
| 10,000円 |
| 10,000円 |
| 10,000円 |
| 10,000円 |
| 10,000円 |
| 10,000円 |
| 10,000円 |
| 10,000円 |
| 20,000円 |
| 3,000円 |
| 48,446円 |
| 30,000円 |
| 10,000円 |
| 10,000円 |
| 20,000円 |
| 20,000円 |
| 20,000円 |
| 10,000円 |

その他匿名希望多数の方よりご寄附頂きました。

**計　348,446円**

現在までにご寄附いただきました金額は

**828,124,754円**

ご寄付は、さわらび会の病院・施設なら、どこでも受け付けております。皆様の御協力をお願い致します。

みんなの力でみんなの幸せを

社会福祉法人

### さわらび会後援会からのお願い

さわらび会後援会では、広く社会の善意のある方々に後援会員になっていただき、そのあたたかい浄財をもって福祉村の建設並びに運営していくよう支援しております。

皆様方の、ご入会を心からお願い申し上げます。

後援会会長　神野信郎

●お問い合わせは　珠藻荘☎(0532)47-1050まで

### お礼コーナー　ありがとうございました

※印は豊橋善意銀行を通して

**▼東京庵様**　昼食招待※　（あかね荘）

## インド福祉村協会寄附ご芳名

平成21年10月11日～11月10日

| |
|---|
| 3,000円 |
| 5,000円 |
| 3,200円 |
| 1,000円 |
| 1,000円 |
| 1,000円 |
| 1,000円 |
| 1,000円 |
| 150,000円 |
| 50,000円 |
| 3,000円 |
| 5,000円 |
| 1,000円 |
| 1,000円 |
| 10,000円 |
| 5,000円 |
| 2,000円 |
| 2,000円 |
| 1,000円 |
| 661円 |
| 5,000円 |
| 1,000円 |
| 55,000円 |

**計　307,861円**

**募金方法(インド福祉村)**

**■振込先**　郵便局 ゆうちょ銀行・振替口座
口座番号00830-2-65008　加入者名 インド福祉村協会

**■連絡先**　軽費老人ホーム若菜荘　ð(0532-48-1138まで

## オータムフェスティバル

去る10月29日（木）に第二さわらび荘にてオータムフェスティバルが行われました。今年は文化祭がインフルエンザの流行により中止となったことから、第二さわらび荘職員が披露する予定だったものを福祉村内のご利用者の皆様に楽しんでいただこうと企画しました。

始めに職員によるジャズ、歌謡ショーが行われ、メインは有志職員による勇壮なソーラン節が披露されました。短い時間ではありましたが、皆様大いに盛り上がり、ソーラン節はアンコールがおこるほど！歌に踊りに楽しい時間を過ごすことができました。（金森）

# ハッピークリスマス

明日香自主製品
明日香にて販売中です!

## 編集後記

今年の年の瀬は新型インフルエンザの拡大で学校が休校となったり、様々なイベントが中止になったりと何かと落ち着かない感じがしています。今月号の「さわらび」では医学講話やさわらび大学レポートそして長寿医学研究所研究通信のページで感染症やインフルエンザに関して専門的な事をとてもわかりやすく解説して頂いています。インフルエンザなどの感染症という恐ろしい相手に負けないためには相手の事をよく知ることが一番です。そして、豊かで楽しい生活を送るためには健康がなによりです。ぜひこの「さわらび」を参考にして頂きインフルエンザなどに負けないよう楽しい年の瀬を送り、新しい新年を迎えて頂ければと思います。

（江川）

【表紙作品】山百合の咲く道　世古玲子（カサ・デ・ローザ）


充実した医療と福祉
みんなの力でみんなの幸せを

社会福祉法人 医療法人 さわらび会　理事長　山本 孝之

- 特別養護老人ホーム さわらび荘 ☎(0532)54-3501 法人本部　豊橋市浪ノ上町7-2
- 特別養護老人ホーム 第二さわらび荘
- ケアハウス カサ デ ローザ ☎(0532)37-1209
- 軽費老人ホーム 若菜荘 ☎(0532)48-1138
- 障害者支援施設 珠藻荘 ☎(0532)47-1050
- 障害者支援施設 あかね荘 ☎(0532)48-2825
- 福祉村病院 ☎(0532)46-7511
- グループホーム白珠 ☎(0532)66-0082
- 障害福祉サービス事業所 明日香 ☎(0532)46-6579
- 福祉村障害福祉サービス事業所 しろがね ☎(0532)48-1032
- 福祉コンビニ（東雲町） ☎(0532)69-5666
- 第二福祉コンビニ弥生 ☎(0532)38-9090
- さわらび会障害者居宅介護事業所 田原 ☎(0531)24-0722
- 福祉村老人保健施設 ジュゲム ☎(0532)46-7501
- 田原市障害者生活支援センター（市委託） ☎(0531)45-3828



さわらび sawarabi
2009年12月1日発行　早蕨　第440号　毎月1日発行
（昭和62年2月21日第三種郵便物認可）
編集責任者●江川和郎　印刷●共和印刷㈱　定価●100円